

日本基督教団京都教区と韓国基督教長老會大田老會<sup>テジョン</sup>

## 日韓間の平和のための共同祈禱文

隔ての壁を取り壊し、平和を創り出す主よ！

現在、日韓関係が日々悪化していく現実を憂慮して、心を合わせて祈ります。

今日、日本と韓国の政府間の関係が極めて険悪となっており、民間交流や経済活動にもその影響が大きく現れている事態を、わたしたちは深く憂慮します。この事態は、日韓双方の多くの方々が、長年の対話と信頼によって平和を創り出してきた両国関係を揺るがしていません。相互の敵対をおおる事態であり、あってはならないことです。

今日の事態の原因は、戦時「徴用工」（強制動員被害者）補償問題などについて、日韓両国の間で「過去の克服」が充分になされていないことに端を発しております。日韓両国、そして東アジア全体の、真の平和と信頼を創り出すための歴史的な課題がここにあります。

わたしたち、京都教区と大田老會の交流は昨年に20周年を迎えました。交流を開始した1998年に京都教区は自らの意志で「相互交流を始めるにあたって謝罪と意志表明」を出しました。その意志表明を重んじて、京都教区と大田老會は両国間の平和を創り出すために励んできましたが、その努力の中で至らなかったことはないのかと反省し、志を新たにしようとしています。歴史を正しく見つめ、これからも日韓の平和を共に祈り、平和を創り出すキリスト者・教会として、一緒に歩むことをわたしたちは共に願っています。

以上を踏まえて新たな志で、わたしたちは主の前で切に祈ります。

1. 日韓両政府の責任者たちが、現在の対立が両国の大きな損失であると認識し、新しい未来のために協力し、歴史を直視して真実を究明し、過去を克服できますように祈ります。
2. 過去に日本が行った戦争と植民地支配の被害者の、人権問題と尊厳の回復のために、国家を超えて連帯する、日韓の市民・キリスト者のつながりができることを切に祈ります。
3. 日韓双方が、自国内の排外主義や、対立をおおるマスコミや、ヘイトスピーチなどの差別的言動によって分断されず、真剣な対話で和解と平和を実現できるように祈ります。
4. 京都教区と大田老會が、日韓両国の「隔ての壁を取り壊し」（エフェソ2：14）、平和を創り出す神様に守られて、これからも共に協力できるように祈ります。

平和の主、イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。 アーメン

2019年10月6日 主日

日本基督教団京都教区と韓国基督教長老會大田老會